

大妻女子大学における全学英語e-learning教育を 効果的に実践するための動機づけに関する研究

Methods for Motivating Second Language Acquisition using Effective E-learning
at Otsuma Women's University

服部 孝彦¹, ティモシー ライト², グレゴリー ジョンソン³, 高野 成彦⁴, ローレンス カーン⁵
Takahiko Hattori¹, Timothy Wright², Gregory Johnson³, Narihiko Takano⁴, Lawrence Karn⁵

¹英語教育研究所, ²社会情報学部, ³比較文化学部, ⁴教職総合支援センター, ⁵英語教育研究所

キーワード: eラーニング, 統合的動機づけ, 道具的動機づけ, 自己決定理論

Key words: e-learning, Integrative motivation, Instrumental motivation, Self-determination theory

1. 研究目的

動機づけは英語学習を成功させるためのきわめて重要な要因である。本研究の目的は、学生の英語学習を継続させ、英語力を向上させるために必要な動機づけに関する研究をおこない、その研究成果を本学英語教育研究所が導入した e-learning システムを活用した英語教育に生かすことである。正規の授業だけでは学生の英語力を伸ばすことは困難であり、英語学習時間を増やすために本学では授業外の e-learning の活用を学生に奨励している。しかし e-learning には課題も多い。教員や学生仲間とのかかわりが少なく、高い動機づけが養われていない限り e-learning の学習は継続が困難である。本研究では e-learning の最大の問題点である動機づけについての考察をし、本学における英語 e-learning 教育発展のための理論的支柱を構築することである。

2. 研究実施内容

学習における個人差による要因のことを学習者要因とよび、動機づけはこの中に含まれる (Ellis, 1994, 1997, 2015; 小西, 1994; Larsen-Freeman & Long, 1991; Skehan, 1989)。動機づけの定義は様々である。

Gardner (1985) は動機づけを「言語学習におけるゴールを達成しようとする努力と、学習言語に対する好意的態度」と定義した。Crookes & Schmidt (1991) は、動機づけは7つの要素から構成されるとした。それらは「興味」、「関連性」、「成功/失敗の予測」、「報酬への信頼」、「意思の固さ」、「一

貫性」、「活動レベルの高さ」である。Dörnyei (1999) は動機づけを「人間の行動の方向と規模を決めるもの」と定義し、「なぜ人がそれを行うのか」、「どのくらいその活動を維持しようとするのか」、「いかにそれを手に入れようとするのか」を説明するものであるとした。Dörnyei & Ushioda (2010) は動機づけを「人がなぜあることをしようと決め、どのくらいの期間それを喜んで続け、どのくらい熱心にそれを達成しようとしているかである」と定義している。

日本の研究者の動機づけの定義としては、鹿毛 (2013) の「行為が起こり、活性化され、維持され、方向づけられ、終結する現象」や廣森 (2010) の「特定の行動を生起し、維持する心理的メカニズム」をあげることができる。廣森 (2010, 2015) は動機づけの中身を3つの要素から捉えている。それらは、ある行動の目標や目的を規定する「動機」(motive)、ある行動の目標や目的の強さを規定する「動機づけ」(motivation)、ある行動への働きかけを規定する「動機づける」(motivate/motivating) である。

動機づけ研究には社会心理学的アプローチ、教育心理学的アプローチ、社会文化的アプローチ、動機づけ方略アプローチ、自己動機づけアプローチ等、様々なアプローチがあり、どのアプローチから動機づけ研究をするかによって、動機づけの定義、研究目的、研究手法は異なる。以下、動機づけ研究の流れを概観し、理論を整理する。

1960年前後から第二言語習得の分野において動機づけ研究が行われるようになった。Gardner &

Lambert (1972) は志向 (orientation) を、言語学習を行う理由と同義であるとした。そして、志向には統合的と道具的の2種類があると述べている。統合的志向すなわち統合的動機づけ (integrative motivation) は、目標言語話者の集団やその文化・社会への好意的な態度に基づくものである。一方、道具的志向すなわち道具的動機づけ (instrumental motivation) は、将来よりよい仕事や待遇を得るために有利な側面への関心に基づくものである。この Gardner らによる社会心理的アプローチが動機づけ研究の出発点である。特に統合的動機づけは言語習得の視点に立っており、現在までその概念の解釈や学習成果との関連をめぐっては多数の研究が行われている。

Deci (1975) は教育心理学的視点から動機づけを内発的動機づけ (intrinsic motivation) と外発的動機づけ (extrinsic motivation) に分けた。この2つの動機づけに代表されるのが自己決定理論 (self-determination theory) である (Deci & Ryan, 1985; 2002)。この理論は、動機づけには、自己決定的、内発的プロセスと、制御的、外発的なプロセスの連続体の中で、外的要素を個人に統合する規制過程があると考えられる。中田 (2011) は自己決定理論について、学習する理由や目的を中心に動機づけを捉えており、どのように動機づけるかという課題は間接的なつながりしかなく、また様々な制約がある学校や教室の文脈を十分配慮していないと指摘している。

1990年代後半から教育現場を意識した研究が増えてきた。Dörnyei & Csizér (1998), Dörnyei (2001), Cheng & Dörnyei (2007) は動機づけ方略 (motivational strategies) について論じている。この動機づけ方略アプローチの他にも、Norton (1995), Ushioda (2001, 2008) の社会文化論的・状況論的アプローチ, William & Burden (1997, 1999), William, Burden, Poulet, & Maun (2004) の社会構造的アプローチ, Li (2006), Nakata (2009) に代表される実践者研究, Sakai & Kikuchi (2008), Kikuchi (2009, 2013, 2015) の動機喪失 (demotivation) 研究などは第二言語習得の動機づけ研究に新たな動きをあたえた。

日本人は学校で外国語としての英語を学習することが可能である (Shrum & Glisan, 2020)。逆に動機づけが足りなければ英語学習を継続させることは難しい。日本の大学生の場合、英語学習を継続し、

アカデミック英語を習得できるかどうかは動機づけ次第といえる。このことから、本研究では大学における自律的英語学習を支える第二言語習得の動機づけ解明の研究に取り組んだ。

3. まとめと今後の課題

本研究では、これまでの動機づけ研究の流れを概観し、動機づけ理論を整理し、第二言語習得に必要な動機づけの解明を試みた。動機づけの研究には多くの可能性が秘められている。最近では、動機づけは安定したものではなく、流動的なものであるという考え方へと変化してきた。そして動機を高める要因、動機を減退させる要因の研究が進められている。今後は、動機を変容させる要因と動機の強さを捉えることで動機づけのダイナミクスを生み出すメカニズムを明らかにし、e-learning を活用した英語教育に有益な示唆を与えることができる研究を行っていく必要がある。

参考文献

- Cheng, H. & Dörnyei, Z. (2007). The use of motivational strategies in language instruction: The case of EFL teaching in Taiwan. *Innovation in language learning and teaching*, 1 (1), 153-174.
- Crookes, G. & Schmidt, R. W. (1991). Motivation: Reopening the research agenda. *Language Learning*, 41, 469-512.
- Deci, E. L. (1975). *Intrinsic motivation*. New York: Plenum Press.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. Dordrecht: Springer.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (2002). *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: The University of Rochester Press.
- Dörnyei, Z. (1999). Motivation. In B. Spolsky (Ed.), *Concise encyclopedia of educational linguistics* (pp. 525-532). Oxford: Pergamon Press.
- Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dörnyei, Z. & Csizér, I. (1998). Ten comments for motivating language learners: Results of an empirical study. *Language Teaching Research*, 2, 203-229.

- Dörnyei, Z. & Ushioda, E. (2010). *Teaching and researching motivation, Second edition*. Harlow: Pearson Education.
- Ellis, R. (1994). *The study of second language acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Ellis, R. (1997). *Second language acquisition*. Oxford: Oxford University Press
- Ellis, R. (2015). *Understanding second language acquisition, Second edition*. Oxford: Oxford University Press.
- Gardner, R. C. (1985). *Social psychology and second language learning: The role of attitudes and motivation*. London: Edward Arnold.
- Gardner, R. C., & Lambert, W. E. (1972). *Attitude and motivation in second language learning*. Rowley, MA: Newbury House.
- 廣森友人. (2010). 「動機づけ研究の観点から見た効果的な英語指導法」. 小嶋英夫・尾関直子・廣森友人 (編). 『成長する英語学習者: 学習者要因と自立学習』(pp. 47-74). 東京: 大修館書店.
- 廣森友人. (2015). 『英語学習のメカニズム: 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』. 東京: 大修館書店.
- 鹿毛雅治. (2013). 『学習意欲の理論: 動機づけの教育心理学』. 東京: 金子書房.
- Kikuchi, K. (2009). Listening to our learners' voices: What demotivates Japanese high schools? *Language Learning Research*, 13, 453-471.
- Kikuchi, K. (2013). Demotivators in Japanese EFL context. In M. Apple, D. Silva, & T. Fellner (Eds.), *Language learning motivation in Japan* (pp. 206-224). Bristol, UK: Multilingual Matters.
- Kikuchi, K. (2015). *Demotivation in second language acquisition: Insights from Japan*. Bristol, UK: Multilingual Matters.
- 小西正恵. (1994). 「第二言語習得における学習者要因」. SLA 研究会 (編). 『第二言語習得に基づく最新の英語教育』(pp. 127-146). 東京: 大修館書店.
- Larsen-Freeman, D. & Long, M. H. (1991). Explanation for differential success among second language learners. In D. Larsen-Freeman & M. H. Long (Eds.), *An introduction to second language acquisition research* (pp. 152-209). London: Longman.
- Li, N. (2006). Researching and experiencing motivation: A plea for “balanced research”. *Language Teaching Research*, 10, 437-456.
- Nakata, Y. (2009). Intrinsic motivation in the EFL school context: A retrospective study of English learning experience in Japanese elementary schools. *The Journal of Asia TEFL*, 6, 263-291.
- 中田賀之, (2011). 「学習者要因: 動機づけ」. 佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子 (編). 『英語教育体系 第5巻 第二言語習得: SLA 研究と外国語教育』(pp. 189-200). 東京: 大修館書店
- Norton, B. (1995). Social identity, investment, and language learning. *TESOL Quarterly*, 29, 9-28.
- Sakai, H. & Kikuchi, K. (2008). An analysis of demotivators in the EFL classroom. *System*, 37, 57-69.
- Shrum, J. L. & Glisan, E. W. (2020). *Teacher's handbook: Contextualized language instruction, 5th Edition*. Boston, MA: Heinle Cengage Learning.
- Skehan, P. (1989). *Individual differences in second-language learning*. London: Edward Arnold.
- Ushioda, E. (2001). Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking. In Z. Dörnyei & R. Schmidt (Eds.), *Motivation and second language acquisition* (pp. 461-492). University of Hawaii, Manoa: Second Language Teaching and Curriculum Center.
- Ushioda, E. (2008). Motivation and good language learner. In C. Griffiths (Ed.), *Lessons from Good Language Learner* (pp. 19-342). Cambridge, Cambridge University Press.
- Williams, M., & Burden, R. L. (1997). *Psychology for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Williams, M., & Burden, R. L. (1999). Students' developing conceptions of them-selves as language learners. *The Modern Language Journal*, 83, 193-201.
- Williams, M., Burden, R. L., Poulet, G., & Maun, I. (2004). Learner's perceptions of their success and failures in foreign language learning. *Language Learning Journal*, 30, 19-29.

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1] 服部 孝彦, 「第二言語習得における動機づけに関する研究」, 日本人類言語学会学術誌『人と言語と文化』, 第12号, 2021, pp.3-26. 【査読あり】

②学会発表

[1] Takahiko Hattori, “An Analysis on the Importance of Motivation in English E-learning”, 日本言語文化学会第28回研究大会, 2021年9月11日, 大妻女子大学